

巣箱の中をのぞく

雲野 明



はじめに

森林公園などに行くと、樹木に巣箱がかけてあるのをよく見かけます。また、春になると、巣箱をかける小学生の姿が新聞やテレビでニュースとして取り上げられます。しかし、そのかけられた巣箱がどんな鳥に使われているかを見る機会はありません。ここではどんな動物が巣箱を利用しているのかを簡単に紹介します。

巣箱を利用する鳥

公園などで普通に見かける巣箱は、縦横20cmぐらいで直径3cmほどの穴のあいたものです（写真-1）。北海道においてこのような巣箱でよく繁殖する鳥は、シジュウカラ、ヤマガラ、ゴジュウカラ、スズメ、ニュウナイスズメ、コムクドリ、ムクドリの7種です。これらの鳥の特徴は樹洞（木に開いた穴）で繁殖し、



表-1 巣箱で繁殖する鳥の主な巣材

シジュウカラ	コケ
ヤマガラ*	
ゴジュウカラ	樹皮（入り口を泥で覆い、巣箱の入り口を狭くすることもある）
スズメ	ワラ、枯草
ニュウナイスズメ	
コムクドリ	枯草、落葉、樹皮
ムクドリ	

*ヤマガラはまれ

写真-1 公園などで普通に見かける巣

自分で木に穴を掘ることができないことです。キツキの仲間も樹洞で繁殖しますが、自分で穴を掘ることができるため、このような巣箱は使いません。ただし、キツキ類も冬のねぐら（夜間の休み場所）として巣箱を使うことがあります。

巣箱で繁殖した鳥を知るには実際に姿で確認するほかに、鳥の種類ごとに巣の材料に特徴があるので、繁殖終了後でも巣材より推定が可能です。たとえば主な巣材がコケであれば、ほとんどの場合シジュウカラが繁殖していたのではないかと推定されます（表-1）。

シジュウカラの巣箱利用のスケジュール

札幌の羊ヶ丘において巣箱で繁殖したシジュウカラを観察しましたので、その様子を紹介합니다。

シジュウカラはまだ雪も解けきらぬ早春からさえずりを行い、繁殖するための約1haほどのなわばりを構えます。なわばりを構えたシジュウカラはなわばり内の巣箱や樹洞を見て回り、4月の下旬から気に入った巣箱に巣材を入れ始めます（図-1）。巣は、普通1、2日で完成しますが、早めに巣をつくり



巣箱に産卵されたシジュウカラの卵



巣箱の中のヒナの様子

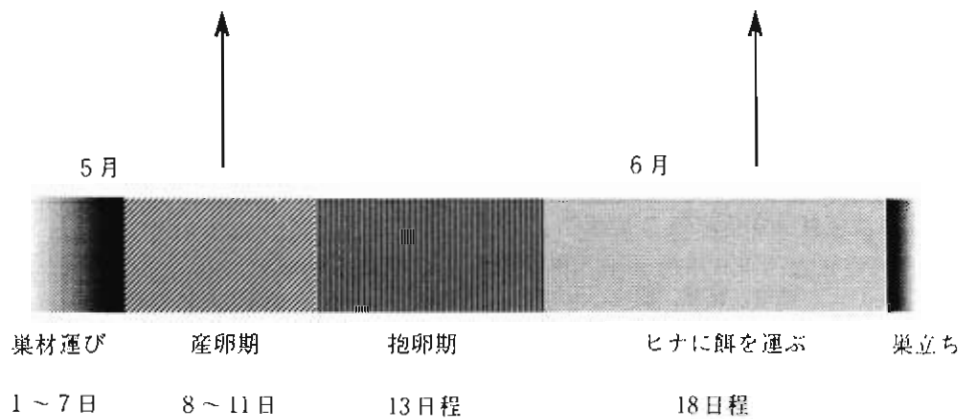


図-1 シジュウカラの繁殖スケジュール

はじめたつがいは、1週間ぐらいかけてつくることもあります。巣はまずコケが巣箱の縁から順に底一面に敷き詰められます。その上の一部に獣毛・綿などを敷き詰め、卵を置く場所（産座）を作り、完成となります。卵は巣が完成してから、毎朝1卵ずつ8～11卵生みます（産卵期）。産卵期は卵を暖めず、全部産んでからメス親が卵を暖めます（抱卵期）、13日間ほど卵をおなかの下で暖めるとヒナがかえります。産卵は毎朝1個ずつ行われるため、最初に産み落とされた卵と最後に産み落とされた卵は、産み落とされてから10日ほどの差があります。しかし、ほぼすべての卵を産んでから暖め始めるので、1、2日ぐらいの間にすべての卵がかえります。卵から出たばかりのヒナは羽毛の生えていない丸裸で、眼も開いていません。そのため、ヒナだけでは体温調節ができないので、もうしばらくの間、メス親はヒナを暖めます。また、ヒナにはすぐにオス親により餌が運ばれます。餌の大部分はこの時期に大量に発生している蝶や蛾の幼虫です。九州で調べた例では、親鳥はそれぞれのヒナに1日当たり13回程度、1

回当たり乾燥重量で40～80mg（2 cm程度の蛾の幼虫1匹）を与えます。親鳥は体重16 g程度の小さな鳥ですが、毎日10羽ぐらいのヒナに虫を与え、親自身も食べるわけですから、かなりの量の虫を食べていることとなります。ヒナは3週間ほど巣の中で親から餌をもらい成長し、まだうまく飛べない状態で巣立っていきます。6月中旬の頃です。巣立ち後、巣の中にヒナが戻ることはなく、しばらくは親から餌をもらいながらなわばり内を家族の群れで移動します。このように、一回の繁殖で巣箱を利用している期間は1ヵ月半ぐらいです。また、卵やヒナが捕食者に襲われることなく順調にヒナを巣立たせることのできた多くのシジュウカラは、その後なわばり内の違う巣箱で2回目の繁殖を行います。この時の卵の数は1回目よりも少なくなりますが、繁殖のスケジュールは同じです。2回目の繁殖が終わるのは8月の上旬頃になるので、シジュウカラが繁殖のために巣箱を利用しているのは、4月下旬から8月上旬までの3ヶ月半ぐらいです。

鳥以外で巣箱を利用する動物

鳥以外にも多くの動物が巣箱を利用することが観察されています。ヒメネズミは多くの落ち葉を持ち込み、繁殖や休息のための巣として利用します。また、エゾモモンガも巣箱を利用します。ただし、エゾモモンガは体の大きさが巣箱の入り口より大きいので、入り口をかじって大きくしてしまいます。他にもスズメバチがよく入っています。一度だけですが、アオダイショウが入っているのを見たこともあります。

もっと巣箱かけを楽しむために

このようにいろいろな動物が巣箱を繁殖の場所としてまた休息の場所として利用します。巣箱をかけるだけではなく、巣箱を利用する鳥や動物たちを知ることができると、一層楽しさが増すと思います。例えば、巣箱で鳥が繁殖しているときに遠くから望遠鏡で餌を運んでくる鳥を観察したり（十分距離をとり、鳥の生活を乱さないよう注意すること）、また毎年新しく巣箱をかけるのではなく、翌年も鳥に巣箱を使ってもらえるように晩秋や早春に巣箱の修理や掃除をしたりするのはどうでしょうか。直接観察したり、掃除をすることでどんな鳥が繁殖していたか知ることができるでしょう。作った人の名前の書かれている巣箱が壊れて木にかかっているのを見るたびにこんなことを感じます。

なお、巣箱の掃除をするときは、巣箱の中が汚れていたり、掃除中に手を傷つけたりするといけないので、手袋を忘れずに。また、巣材の中にはノミなどの寄生虫がいるので、古い巣材はその場に捨てるか埋めるなどして適切に処理してください。

（小動物科）